

イニングの合間は休憩時間ではない

2026/4/27

試合のイニングの合間、特に球審の場合はどんな仕事があるのだろうか。まず思い浮かぶのは、守備につく選手の追い出しと投手の準備投球を管理することは勿論であり、余分に投球をさせないように「ワン モア ピッチ」を必ず宣告する必要がある。正式な試合であればランナーコーチがついていないにもかかわらずプレイをコールしてはいけない。選手に勝手に試合をやらせるのではなく、**試合をコントロールする**（古い言い方だと仕切る）能力が試されている。

しかし、これ以外に注意を要する大切なことがある。

- ① 交代発表のない選手が**投手板に位置**しないかどうか。5.10(j)1
 - ② すでに試合に出場している投手が**イニングの初めにファウルラインを超えた**かどうか。5.10(i)
 - ③ 塁上にいた投手が、イニングが終了してベンチに戻らず準備投球のために**投手板を踏まないか**。5.10(i) ←「規則適用上の解釈」では、**投手板について準備投球を開始**しないか。
- ① の場合は、発表がなくても交代が認められてしまうからだ。
② と ③ は、投手に第一打者に対して投球義務が生じるため、監督が投手交代を申し出ても受け付けてはならないからである。

今年も暑さに苦しみながらアンパイアリングをこなさなければならないが、健康管理とスムーズな試合進行を両立させる必要がある。のどの渇きを覚えるまえから、少しずつ水分補給をするべきである。球審としてグラウンド（仕事場）を開けることを避けるための手だてを考えて、水分補給をしながら試合進行に臨んでほしい。

友人からの問い合わせ

2026/4/28

朝起きると友人からラインが入っていた。ルールの問題集を学習していたようである。要約すると以下の内容である。

1 アウト走者一・二塁で三遊間に鋭い打球が転がり、三塁手が飛びついて捕ろうとしたがグラブに当たりはじかれ、打球は二・三塁間の真ん中に転がった。遊撃手がこれを捕ろうとしたところ、二塁走者と偶然接触し打球処理ができなかった。打球は左翼方向に転がり、遊撃手と接触した二塁走者は態勢を崩しながらも三塁に到達し、左翼手はボールを持って内野に入った。一塁走者と打者走者はそれぞれ進塁し、一塁と二塁のベース上にいたが、塁審は何もコールをしなかった。これで良いのかという問い合わせである。

オブストラクションをコールすべきか、守備妨害をコールすべきか、はたまた、ナッシングをコールすべきか？とても瞬時に現場で判断するのは難しそうなのでしっかり頭に叩き込んでおかないといけなさと考えてのことだろう。

まず、頭に浮かぶのは、野手の股間を抜けた打球やすぐ側方を通り抜けた打球に走者が触れるケース、守備者に一度触れた打球に走者が触れるケースであろう。しかし、この問題は一度守備者のグラブをはじいた打球を次の守備者が捕ろうとしているところにボールではなく、偶然走者が守備者と接触したケースである。

規則書では、
打者または走者の妨害の項目 6.01a(10)

「打者が打球を処理しようとしている野手を避けなかったか、あるいは送球を故意に妨げた場合」

走者アウトの項目 5.09 b (3)

「走者が、送球を故意に妨げた場合、または打球を処理しようとしている野手の妨げになった場合。」

とあり、一度守備者に触れたかどうかは記載されていないが、

5.09b(7) [注 1]

「……いったん内野手に触れた打球に対して守備しようとする野手を走者が妨げたときには、5.09b (3) によってアウトにされる場合もある。」

つまり、野手が触れた打球、触れていない打球の区別なく守備しようとしている(守備機会がある)野手を走者が妨げた場合は、守備機会を奪ったと判断されて、守備妨害になるということである。勿論ボールデッドである。

アピール権があるのか迷った

2027/5/17

1 アウト走者二・三塁、左中間にフライが上がった。三塁走者は打球が抜けると思ったか本塁に走った。二塁走者は三塁の近くまで行っていたが、レフトが打球をキャッチしたので二塁に帰塁しようとした。ボールは二塁走者が帰塁するよりも早く二塁に転送され3アウトとなった。球審は二塁とホームの延長線でタイムプレイを観て、「ザッツランスコアー」をコールした。チェンジとなり守備側の選手がベンチに引き上げたのだが、控え審判から三塁走者はタッグアップをしていないと言われ、三塁のアピール権はあるのかと迷い始めたとの事であった。

この場面での球審と塁審の仕事を確認してみよう。

左中間の打球判定は塁審。打球がノーキャッチであれば、その後一塁の触塁とオブストラクション等を確認し一から三塁までのプレイを担当しなければならない。打球がキャッチされたなら二塁走者のリタッチを確認し二・三塁のプレイを担当する。

球審は、打球が捕球された場合、本塁の左横に移動して三塁走者のタッグアップを確認すること、本塁のプレイを受け持つこと。3アウト目のプレイと三塁走者の本塁到達のどちらが早いのかを直線上に位置して判定し得点したかしなかったかをコールすること。もし、三塁でのアピールがあれば球審が判定を下し、アウトであればこの第4アウトを第3アウトに置き換えて「ノーランスコアー」をコールしなければならない。ただし、このアピール権は内野手全員がファウルラインを超えてしまえば、権利はなくなる。

第4アウトを第3アウトに置き換えができることを覚えておこう。

監督からの抗議

2026/5/17

4人制で塁審はチームから出ていた試合。1アウト走者一・三塁からヒットエンドラン、打球はゴロで右中間へ。三塁走者はホームインし、打球を捕った右翼手は一塁へ送球して打者はアウトになったが、一塁走者は二塁上に立っていたボールを持たない二塁手と軽く接触した。攻撃側の監督から「一塁走者はオブストラクションで三塁へ行けるはずだ」と抗議があり、球審は塁審を集めて協議、しかし、塁審・球審もその状況を見ていなかった。一塁手が送球を受けた時点では、一塁走者はショート前まで行ってなかったのも、オブストラクションが無くても三塁へ進塁することは無理と判断し、走者二塁で試合を再開する旨をつげた。今回の抗議を受けたことについての反省点は、二塁でのオブストラクションを観るのは塁審の仕事であり、直接一塁走者にプレイがなされていない2項の場合には、ポイントをしてオブストラクションをコールしなければならないがチーム審判では、そこまで要求できない。監督の抗議がある前に審判員が集まって協議し、オブストラクションが発生したこと、しかしオブストラクションがなくても三塁までは行くことは不可能だと判断し、走者二・一塁で試合を再開することを知らせるとよかったのだが、処置が後手に回ってしまった。

次の打者は誰か

2026/5/23

2アウト走者三塁、打者のボールカウント1-2から空振り、そのボールを捕手がはじいてホーム前に転がった。打者は振り逃げで一塁に走り、捕手はボールを捕って一塁に送球しようとしたところへ、本塁に突っ込んできた三塁走者が捕手に接触したが、それでも捕手は一塁に送球して打者はアウトでチェンジとなった。

さて、このような場合、どうジャッジしたら良いのだろうか。

三塁走者が捕手に接触した時点で、球審はタイムをかけて三塁走者の妨害を

コールしなければならない。2アウト後の走者の妨害であるので、打者にアウトを宣告する。勿論、次回の攻撃時は、3アウトになった打者の次の打者の打席から始まる。

6.01 インターフェアアに対するペナルティ【原注 1】

「打球（フェアボールとファウルボールとの区別なく）を処理しようとしている野手の妨げになったと審判員によって認められた走者は、それが故意であったか故意でなかったかの区別なく、アウトになる。……途中略……0アウトまたは1アウトのときは、その走者と打者ともにアウトを、2アウト後のときは、打者にアウトを宣告する。」

この件について友人にはお詫びをしておかなければならない。2アウト後の処置について、三塁走者は守備妨害でアウトになり、打者は記録上ヒットが記入され、打撃が完了しているため、次回の攻撃時には、次の打者から始まると答えたが、上記の**強調文字の個所**の様に訂正をさせていただく。

一塁のスワイプタッグ

2026/5/24

2人制の試合、ノーアウト走者一塁、打者がショートゴロを打ち、遊撃手が捕って一塁へ送球したが本塁側にそれ、一塁手はベースから離れジャンプして捕球するとスワイプタッグをした。セカンド前に位置していた塁審からはタッグされたかどうかは見えにくい状況であった。球審はタッグされたことがはっきり確認できたので小さくこぶしを握り、アウトのサインを塁審に出した。しかし、塁審は球審からのサインに気付かずセーフをコール。守備側の監督が出て来て球審に塁審と協議をしてくれと要求。塁審に確認するとタッグが見えなかったのでセーフにしたとのことだった。球審はタッグしていたことを塁審に告げたが、塁審は判定を変えることを拒んだ為、球審はノータッグでセーフと監督に伝えた。すると監督は更に抗議を続けようとしたので、球審が「協議し最終的な結論なので、これ以上抗議をすれば退場となる」ことを伝え、試合を

続行した。さて、このアンパイアリングにどんな問題点があったのかを考えてみよう。塁審はタッグがなされたかどうか判断がつかない場合は、アイコンタクトまたはサインを送り球審に助けを求めてタッグがされたかどうかを確認して判定を出すべきである。今回の場合、球審はわざわざアウトのサインを送ってくれていたのだから、そのサインを見る余裕が欲しかった。また、抗議があった場合、判定をした当事者の塁審に対応させるべきである。また、協議し、タッグがなされていることを球審がはっきり見ているのだから、判定を訂正するべきであった。勿論、当事者である塁審が説明し判定を訂正するべきである。

8.02(c)【原注 1】には「監督は、審判員にプレイおよび裁定を変更した理由について説明を求めることはできる。しかし、いったん審判員の説明を受ければ、審判員に異議を唱えることは許されない。」とある。

三塁に二人の走者

2026/5/24

1 アウト走者三・二塁、打球はショートゴロ、三塁走者が飛び出したので送球は捕手に送られ3本間でランダンプレイとなった。その間、二塁走者は三塁に到達し、打者走者は二塁まで進んだ。三塁走者は三塁に帰塁し、三塁ベース上に二人の走者が位置し、野手は二人の走者にそれぞれタッグした。アウトと勘違いした三塁走者はダッグアウトに帰って行った。アウトになっている二塁走者はそのまま三塁に残った状態でプレイは続けられた。こんなことで良いのか。あいまいなジャッジ、誤ったジャッジでごまかしてはいけない。

タイムプレイではないのか

2026/5/24

学童の試合で1アウト走者三・二塁、打球はセンターへフライが上がり捕球された。二塁走者はとび出して三塁方向へ走っていたが、あわてて二塁へ戻ろうとした。しかし二塁へ送球され3アウトとなった。その間、三塁走者は三

塁をタッグアップして本塁に走った。球審は得点が入ったかどうかの宣告をしなかった。守備側の選手はチェンジと思ってベンチに引き上げた。得点版を見ると得点が入っていなかった。球審はタイムプレイであることに気付かずに試合を進めてしまったようである。

このような場合、球審は3アウトになりそうなプレイが行われる二塁と本塁を結ぶ延長戦に位置して、3アウトの瞬間と三塁走者が本塁を踏むのとどちらが早いかを観て「スコアー」か「ノースコアー」をコールしなければならない。その後に三塁走者のリタッチのアピールがあれば、球審はジャッジし、アウトであれば第4アウトを第3アウトに置き換え、「ノースコアー」をコールする。守備側は第3アウト後のスコアーコールを聞いてアピールをするのであるから、今回のような場合は、監督から抗議がなかったからよかったでは済まない出来事である。ちなみに日本では、二塁での3アウトはタイムプレイと関係するので、アウトの瞬間にコールをし、その後に落球すればセーフを入れ直すようにNPBもアマチュアも指導しているが、MLBや米マイナーリーグでは、捕球をしっかり確認した後にアウトをコールするように指導している。

球審しっかり

2026/5/24

走者なしで打者は投球にバットを振った。当たり損ねた打球が本塁前で止まった。打者は打席に立ったままである。捕手はそのボールを拾って、打者にダッグした。球審は発声せずにアウトのメカニックを打者に示した。しかし打者はそのまま打席内から動こうとしない。ネクストバッターサークルの選手が打者に「体に当たったのか」と聞くと打者はつま先に当たった事を告げ、球審にアピールすることなく控えめな態度でそのまま打席に立った状態であった。球審はファウルメカニックを出して試合を再開した。我々の試合では揉めることはないかもしれないが、場合によっては、「アウトをコールしたではないか」と守備側から強固な抗議を受ける場合もある。もっとしっかりプレイを見て判定を出すべきである。

ボールカウントで揉める

2026/4/24

試合中に球審がボールカウントを 2-2 とコールした。すると攻撃側の監督や応援席からもボールカウントが間違っていると指摘の声が上がった。球審はバックネット裏の本部席に控えている理事に確認すると 2-2 という答えが返ってきたので、ボールカウント 2-2 と宣告し試合を再開した。ところが本部の理事もカウントを間違えていたことが後に判明。1 球目ボール、2 球目ファウル、3 球目ボールで 2-1 だったのである。塁審もインジゲーターをもって試合に臨んでいるはずなので、一言指摘をすれば大ごとにならずに済んだと思われる。

ところで、投球カウントの誤りの訂正については、8.02(c)に「投手が次の打者へ 1 球を投じるまで、または、イニングや試合の最終打者の場合には守備側のチームのすべての内野手がフェア地域を離れるまでに行わなければならない。」とある。

村上宗隆選手アメリカンリーグトップのホームラン 20 号

2026/5/28

村上選手(ホワイトソックス)が日本時間の 5/28、ミネソタツインズ戦で、7 回にアメリカンリーグトップのホームラン 20 号を打ち話題をさらっていた。右の写真はその時のものだが、よく見ると球審がジェン・



パウオル(女性 袖番 95)である。この審判クルーはチーフがダン・イアソーニャだが、メンバーの C・B・バックナーが 4/1 の試合でファウルチップをマス



クに受けて以降、試合に参加していない。彼の代理として彼女が入っていると思われる。バックナーは 1996 年からメジャーで審判を務めている古参だが、誤審が多いことで有名である。いよいよ引

退が近いのではないだろうかと思ってしまう。